

3日 火曜

ネヘミヤ

2:11 こうして私はエルサレムに着いて、そこに三日間とどまった。

2:12 ある夜、私は起きて出て行った。ほかに数人の者も一緒であった。しかし私は、私の神がエルサレムのためにさせようと私の心に示しておられることを、だれにも告げなかった。また私自身が乗った動物のほかに、動物はいなかった。

2:13 私は夜、谷の門を通過して竜の泉の方、糞の門のところに出て行き、エルサレムの城壁を調べた。それは崩され、その門は火で焼き尽くされていた。

2:14 さらに、泉の門と王の池の方へ進んで行ったが、私が乗っていた動物の通れる場所がなかった。

2:15 夜のうちに流れを上って行って、城壁を調べた。そしてまた引き返し、谷の門を通過して戻った。

2:16 代表者たちは、私がどこへ行っていたか、また私が何をしていたかを知らなかった。ユダヤ人にも、祭司たちにも、有力者たちにも、代表者たちにも、そのほか工事をする者たちにも、その時まで私は何も告げていなかった。

2:17 私は彼らに言った。「私たちが直面している困難は見てのとおりだ。エルサレムは廃墟となり、その門は火で焼き払われたままだ。さあ、エルサレムの城壁を築き直し、もうこれ以上、屈辱を受けないようにしよう。」

2:18 そして、私に恵みを下さった私の神の御手のことと、また王が言ったことばを彼らに告げた。すると彼らは「さあ、再建に取りかかろう」と言って、この良い仕事に着手した。

2:19 ところが、ホロン人サンバラテと、アン



モン人でその部下のトビヤ、およびアラブ人ゲシムは、これを聞いて私たちに嘲り、蔑んで言った。「おまえたちのしているこのことは何だ。おまえたちは王に反逆しようとしているのか。」

2:20 私は彼らにことばを返して言った。「天の神ご自身が私たちを成功させてくださる。それで、そのしもべである私たちは、再建に取りかかっているのだ。あなたがたには、エルサレムのうちに何の取り分も、権利も、ゆかりもない。」

ネヘミヤは三日間とどまって「障壁を調べ」ました。現実を直視し、有効な手立てを考えるためです。このように、信仰とは無計画や無知ではなく、現実を知把握した上でのものです。そして、「神が...させようと」しておられることを知ることです。それも「私の心を動かして」とありますから、自分が心からの責任を持ってあたるのです。そのような現実を把握した理解力と、神を中心にした信仰があったので、「嘲り蔑んだ」ことばにもひるむことなく、正しく発言することができたのです。

私たちも主の働きに生きる者として、ネヘミヤを模範としましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

